

の  
大野町 野地区

令和2年度

## 【地域の概要】

- 町内の耕地面積は1,170ha、野地区の耕地面積は106ha。
- 全域が平地であり水田や柿畑を主に耕作している。
- 一部担い手が耕作しているが、個人農家が多く集約化が進んでいない地域であり、担い手空白地帯となっている。

## 取組開始前の状況や課題

- 同地区の土地は、地盤が軟弱な場所が多く、大型農機で作業をした場合、機械が沈み込んでしまうため、借り受ける担い手がない状況が続いていた。
- 地権者が複数おり、草刈りのみを行っているなど、耕作放棄されている土地が散見される状況であった。
- 山が近く、鳥獣被害も頻発している。



## 取組内容

- 地区担当委員が担い手へのマッチング活動を実施。農地所有者29人の権利設定手続きを、担当委員が戸別訪問し、わずか3日で完了。地区を良く知る委員が積極的に活動したことで、長年地権者が管理に困っていた土地、約6haの集積を実現した。

## 【活動の経過】

2018年（2月）

耕作者の確保と、暗渠排水工事検討（地盤対策）のため、地区担当委員が活動を開始。

2018年（3月）

農業委員会と連携し、農地所有者等18名を集め、話し合いを実施。地区内での受け手が見込めなかった為、隣接する揖斐川町の養豚経営者、菖蒲谷牧場（山川氏）を候補に立てた。

2020年

山川氏が1年間、作業委託で飼料用米を作付けし、地区の農地の状態を確認した上で、借り受け了承を頂いた。

2021年

農地約6haに10年間の利用権設定を行った。

## 今後の展開と方向性

- 借り受け頂いた山川氏の経営を支援するためにも、検討を行っていた暗渠排水工事の実施へ向け、県補助金等を活用した手続きを進める。
- 今回権利設定した箇所を起点に同地区内をはじめ、周辺地域にも範囲を拡大してもらえるよう情報提供に努める。
- 野地区に限らず、新規参入してもらえる担い手がいれば、協力していただき集積・集約化を進めていきたい。



新規利用権設定した集積・集約図